



CONTENTS

- 特別インタビュー 宮寄 英世・杉山 温人先生に聞く
- 注目の診療科 ① 歯科・口腔外診療科長 丸岡 豊先生に聞く
- 皮膚・排泄ケア認定看護師 (WOC) / NCGM 医療連携の会について



新病院長 宮寄 英世

みや ざき ひで よ
泌尿器科診療科長
第一泌尿器科医長



新機構『感染症総合サイエンスセンター』として 感染症対応に強い、質の高い診療を提供します

みやざき

7月より新病院長に就任いたしました宮寄と申します。6年前から泌尿器科診療科長として診療をしてまいりました。また昨年度からは医療安全および医療の質を担当しておりました。これからも地域の皆さんに質の高い総合診療を提供できるように引き続き頑張っていく所存です。来年4月には当センターは国立感染症研究所と合併して新機構となる予定です。新機構は感染症総合サイエンスセンターというコンセプトで活動しますが、センター病院はその一部門として現在とかわらず総合診療を行う予定です。今後ともよろしくお願いいたします。

副院長



ほうじょう まさ ゆき
放生 雅章
広報、総務、診療
教育担当



たま き たけし
玉木 毅
医療安全、医療の質
診療録、保険担当



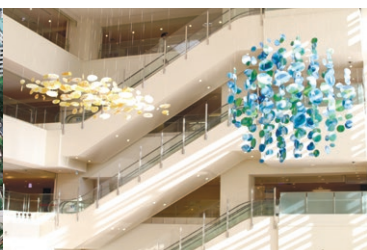
ひろ い ゆき お
廣井 透雄
研究、医工連携、国際
労務、バイオバンク担当



やま だ かず ひこ
山田 和彦
手術、医療連携、
情報担当



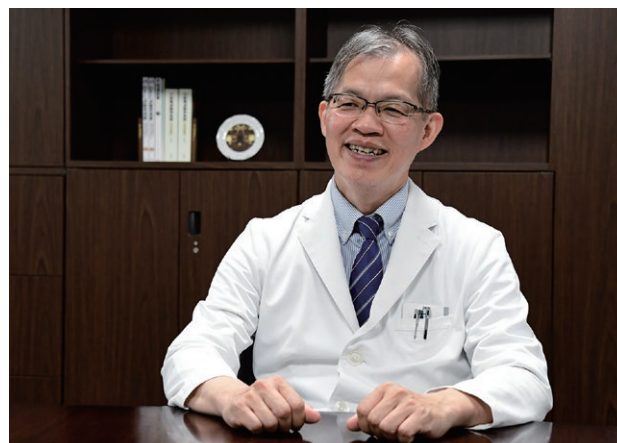
おおまがり のり お
大曲 貴夫
感染・危機管理、
災害・救急担当



高度な急性期病院、研究にも強みを持つ“総合病院”として 皆様の健康の実現に邁進します

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院

病院長 宮寄 英世氏に聞く



2024年7月1日に宮寄英世先生がNCGMの病院長に就任されました。院長に就任された意気込みと2025年、国立感染症研究所と統合して「国立健康危機管理研究機構」となる今後の展望について語っていただきました。

2025年、新機構「感染症総合サイエンスセンター」として成長

2024年7月に新病院長に就任いたしました。病院の理念にもありますように、「最善の総合医療を提供し、疾病の克服と健康の増進を通じて社会に貢献」できるように努力してまいります。

当センター病院の歴史は古く、そのルーツは明治元年、戊辰戦争の傷病兵の治療を行っていた兵隊仮病院までさかのぼります。その後、東京陸軍病院、国立東京第二病院などを経て、昭和47年に国立医療センターとなりました。当時は、「がんに対してのがんセンター」があるように、「がん以外のすべての疾患のためのセンター」を、ということで設立され、その後、現在のNCGMとなりました。

来年4月にNCGMは国立感染症研究所と合併し、国立健康危機管理研究機構という新機構となります。新機構は「これまでにない、世界の感染症対応の推進役となる、国内の感染症総合サイエンスセンター」となる予定です。当センター病院はその一部門として、現在と変わらず、質の高い総合診療を提供しつつ、さらに感染症対応にも強い病院となる予定です。

当院の特長として、年間1000台以上の救急車を受け入れる救命救急センター、コロナ禍で活躍した感染症内科、糖尿病総合診療センター、エイズ治療・研究開発センター、NHKでも取り上げられた国際リンパ浮腫センターなどがあります。また今年稼働を開始したハイブリッド手術室では、CTや血管造影を行いながら清潔な手術ができるようになりました。さらには日本中で数か所しか行われていない腹膜偽粘液腫に対する減量手術など非常に高度な診療が行われております。

また当院は、地域がん診療連携拠点病院としてがん診療にも力をいれております。手術用ロボット（ダヴィンチ）の2台が昨年度より稼働しており、がんに対する低侵襲な手術に力をいれております。また、がん総合診療センターではがんゲノム治療や外来治療センター、緩和ケア、AYA支援チームなど取り組んでおります。

さらには国際診療部を設置して外国人患者診療にも力をいれており、JMIP（外国人患者受け入れ医療機関認証制度）の認証を受けております。

高度急性期、研究に強みを持つ総合病院として健康の実現に向かって邁進

来年4月に発足する新機構の名称はJ-IHS (Japan Institute for Health Security) に決まりました。当センター病院はJ-IHSの一部門となり、日本に88施設しかない特定機能病院として平時は高度な総合医療を提供し、有事には感染症対応、救急医療、集中医療、災害医療などにも取り組みます。また研究面でもセンター内に研究所、臨床研究センター、国際医療協力局を併設している利点をいかして、国際基準の臨床研究や医師主導治験を行ってまいります。患者の皆様におかれましては、バイオバンク（血液等の生体資料

や医療情報を研究に活用）へのご参加、臨床研究へのご参加をよろしくお願いいたします。

当院はこのような高度な急性期病院、また研究にも強みを持つ総合病院として、地域および国全体の健康の実現に向かって邁進する所存です。今後とも、地域の先生方、医療関係者の皆様、患者の皆様のご理解およびご支援をよろしくお願いいたします。

PROFILE

みやざき ひでよ ● 東京大学薬学部卒業、東京大学医学部卒業、東京大学泌尿器外科学講師、東京大学泌尿器科准教授を歴任。専門分野・主な認定資格として尿路結石症、前立腺肥大症、泌尿器がん、日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医、ロボット手術プロクター（膀胱・前立腺、副腎・腎）、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

2025年4月、「国立健康危機管理研究機構」としてあらゆる健康危機に対応し、国民の負託に応えます

杉山 温人 国立国際医療研究センター病院 前病院長

NCGMは2025年4月に国立感染症研究所と統合して、国立健康危機管理研究機構と言う新たな組織に生まれ変わります。今後、センター病院は新機構の臨床面を支える重要な部門として、感染症のみならず災害を含めた、あらゆる健康危機に対して今まで以上に迅速に対応できる能力を磨き上げて、国民の皆さんのご期待にお応えしたいと考えています。

今年度のNewsweek 社 World's Best Hospitals 2024においてセンター病院は世界88位、国内6位にランクインしました。これで6年連続で選出されています。NCGMはこの

評価に慢心することなく、ハイブリッド手術室の開設、脊椎外科の創設、ロボット手術の一層の充実など、体制整備に努めてまいります。

最後に私事にはなりますが、6月末をもって退任することになりました。5年3か月にわたる病院長在任期間中、皆さんには大変お世話になりました。今までのご厚情に深く感謝申し上げます。今後は新しい病院長を中心に皆さんのご期待に沿えるよう職員一丸となって全身全霊で取り組んでまいります。

今年度もNCGMをよろしくお願いいたします。



丸岡 豊

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
歯科・口腔外科 診療科長



毎日のカンファレンスを通じて症例検討と
情報共有を行い、研究活動を推進、
新しい治療法の開発にも取り組む



国立国際医療研究センター病院
歯科・口腔外科診療科長として、
顎変形症、顎関節症、血管病変な
どの診療に従事している丸岡 豊先
生に診療科の紹介と今後の抱負を
伺った

病院の中の歯医者さんと
高度歯科医療機関の役割
NCGMの総合力を担う科

私たちの歯科・口腔外科はいく
つかの役割を持っています。第1
は、言うなれば、病院の中の「歯
医者さん」です。入院患者の歯科

治療、周術期の口腔ケアなどを担当しています。その他には、一般歯科では対応困難な症例の受け入れや、顎・顔面領域の外科的疾患の治療などの高度歯科医療機関としての役割です。

また当科は、NCGMの総合力の一翼を担う仕事をしています。NST(栄養サポートチーム)の一員としての役割、がんなどの化学療法前後の口腔ケアのサポート、ターミナルケアサポートなどを通して患者さんのQOL向上に努めるなど、NCGMを横断的に関わっています。

レーザーによる「血管腫」の治療を実施

特に力を入れているのは、レーザーによる「血管腫」の治療です。

血管腫とは、本来幅広くのびていくはずの血管が変化し、異常な塊を作ってしまう病気です。従来の治療法は病変を切り取る切除手術が多かったのですが、顔や口の周りの場合は見た目に大きく影響してしまいます。

当科では、切除ではなく、Nd:YAG(ネオジウムヤグ)レーザーを使用した「病変内照射法」という治療を実施しており、これまでに日本全国から紹介されてきた30



国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
歯科・口腔外科 診療科長、医工連携推進室長、東京医科歯科大学 臨床教授

まるおか ゆたか
丸岡 豊

東北大学歯学部卒業。国立国際医療研究センター病院 歯科・口腔外科診療科長として、顎変形症、顎関節症、血管病変などの診療に従事している。
日本歯科専門医機構口腔外科専門医、日本口腔外科学会 指導医・専門医、日本顎顔面インプラント学会 指導医、日本有病者歯科医療学会 指導医・専門医、日本口腔内科学会 指導医・専門医、日本顎変形症学会指導医・専門医、ICD制度協議会 インフェクションコントロールドクター

0人近くの治療をしてきました。この治療法は保険適用になっていますが、実際に対応できる機会は非常に少ないのです。

好奇心を常に持ち、新しい治療法に取り組む

信条として、「好奇心」を持つように心がけています。常に自分がやっていることに疑問を投げかけ、なぜこうすると効くんだろう？ もっと他のものはないのかなど、好奇心・探究心を常に持つようにしています。

また、下顎の関節(下顎頭)の体積が徐々に減少する進行性の病氣「進行性下顎頭吸収(PCR)」をはじめ、顎関節症の新しい治療法の研究をするなど、患者さんの生活の質が少しでも上がるよう治療に尽力しています。気になることがあれば一度ご相談ください。

患者さんとの「コミュニケーション」を大切に

患者さんへの対応では、よく話を聴くよう努めています。特に診療方針や病氣に対する思いをできるだけ聴き取り、希望に沿えるように最大限の努力をする一方で、受け合いはしない。できること、できないことを明確に伝えること

を心がけています。

そして、常に客観的に自己評価し、自分で対応できない症例は速やかに対応可能な医師に紹介するなど、患者さんに最適な医療を提供することを目指しています。

チーム医療、教育研修、地域連携について

チーム医療、教育研修、地域連携にも力を入れており、優秀な人材の育成と全国への情報発信に努めています。

地域連携では地域の歯科のみならず多くの医科とも連携しており、当初、年間の手術室の手術数が30件でしたが、現在は約270件と9倍に増えました。

また、毎日のカンファレンスにおいて、基本的に患者さん全員の状態をチェック、症例検討と情報共有を行っています。こういう活動を通して、これからも、優秀な歯科医師の育成に注力し、研究活動を推進し、新しい治療法の開発に取り組んでいきます。

さらに、NSTやリスクマネジメントチームなどのチーム医療で他科との連携を深め、地域の医療機関との連携を強化し、患者さんの生活の質が少しでも上がるよう治療に尽力してまいります。

第2回 皮膚・排泄ケア認定看護師(WOC)

熟練した看護技術と知識を用い
質の高い看護の実践をおこなう

専門看護師・認定看護師の第2回は「皮膚・排泄ケア認定看護師(WOC)」です。
患者ケアにおけるWOCの専門性と貢献、今後の目標や課題についてうかがいました。

患者さんの尊厳と
生活の質の向上に貢献する
看護の実践を目指す

皮膚・排泄ケア認定看護師は、
WOC(ウオックナース)と呼ば
れ、創傷・オストミー・失禁看
護を専門とする認定看護師です。

WOCの認定取得には通算5
年以上の実務と600時間以上
の研修受講が必要で、1年程度
の期間を要します。

主な役割は、皮膚のバリア機
能の維持、創傷の発生予防のた
めのスキンケアです。褥瘡予防
のためのベッドやマットの調整
などの病床環境を整える提案も
しています。

また、病気や手術後、加齢に
よって発生する尿や便失禁の改
善や排泄コントロール、さらに
ストーマ^{※1}ケアも重要な役割で、
ストーマ周囲の皮膚の管理はもち
ろん精神的なサポートも含め、日
常生活のアドバイスを行っていま
す。

今後も医師と協力しながら、患
者さんの状態に応じた適切なケ
アを提供し、皮膚・排泄ケアの
質向上に努めてまいります。

※1：ストーマ(人工膀胱)とは手術によっておなかに新しく作られた、便や尿の排泄口。ストーマには、人工肛門や人工膀胱の種類があります。

専門・認定看護師の声

いがらし ひでみ
五十嵐 秀美

皮膚・排泄ケア認定看護師



入

職1年目の頃に、同じ病棟に鈴木さんがいらっしゃいました。そこで、患者さんやその御家族が喜ばれる姿を目の当たりにし、直接看護の指導を受けることも多かったです。自分の看護の次のステージを考えた時、WOCへのチャレンジは、自然の流れだった気がします。

これまで、多くの医師や鈴木さんを始め先輩看護師とともに褥瘡や排泄ケア、ストーマなどWOCの仕事を実践で学びました。

今後は、これまで培った知識や経験をブラッシュアップし、若いスタッフへ効率よく技術をつたえていく事を課題としています。そして、共に患者さんの尊厳と生活の質の向上に貢献できる看護師として成長していきたいと考えています。

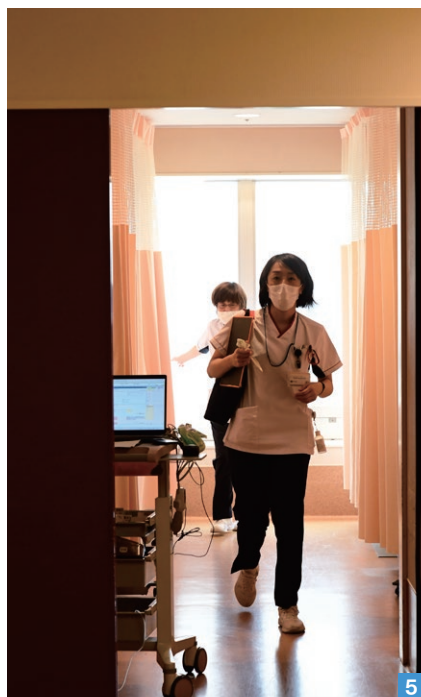
すずき むつこ
鈴木 睦子副看護師長
皮膚・排泄ケア認定看護師

W

OCの仕事は、看護のベシックな部分だと思います。褥瘡だったり、スキンケアだったり、オムツ交換だったり、「看護の質」が評価されるのでないかと思います。また専門性が活かされる事がモチベーションになっています。

高齢者の方や重症の方は、免疫機能も下がっていることが多いので、皮膚トラブル発生のリスクが高いです。そのため各病棟にWOCナースが常駐するのがベストですが、マンパワーに限りがあるため、私たちがケアの提案や考え方などを通じて、全体のレベルアップを図るよう努めています。

また、この地域は、高齢者独居率が高い地域。地域の中核病院の看護師として訪問看護師さんと連携とり在宅ケアの底上げにも注力したいと思います。



5



1



3



2



6



4

1 ナースステーションで患者さんの状況を各看護師から確認
2 一人ひとりの患者さんの様子をデータを参考に入念にチェック
3 担当の看護師からさらに細かく状態を聴く
4 医師と協力しながら患者さんに適切なケアをおこなう
5 6 ケア後、患者さんの状態を確認しあう、鈴木さん(左)と五十嵐さん

NCGM連携の会

当院は連携登録医の先生方をはじめ地域の医療機関の関係者との連携をより強化する目的とした「NCGM連携の会」を令和6年6月10日(月)に開催いたしました。この会は、令和元年を最後にコロナ禍の影響で開催を延期しておりましたが、この度5年ぶりとなる対面開催です。日頃ご紹介をいただいている外部の先生方とのface to faceでの意見交換をすることで、紹介・逆紹介をよりスムーズに行なうための非常に重要な会となりました。また、当日は診療科長からのミニレクチャーも行い盛況を博しました。



■ 人間ドックセンターのご案内



長い歴史をもつ当人間ドックセンターは、その歴史と経験に基づき、お客様からの安心と信頼をいただいております。その期待にお応えできるよう全スタッフが心を込めてお迎えしております。施設内は広めのフロアでゆったりとしており、スムーズに検査を受けていただけることはもちろん、病院の専門診療科とも常に連携を取っており、ご病気が発見された際には、迅速に専門診療科へご紹介しております。

また当院の特徴として、胃と大腸の内視鏡検査が同日に行えるコースや専門診療科とタイアップしたコース、PET-CT 検査などの様々なオプション検査をご用意しており、皆さまの生活習慣や既往歴などに合わせて、ご自分でご自由にお選びいただけます。日帰りコースだけでなく、ご宿泊コースもご用意しており、お部屋からの夜景やお食事を楽しみながら、時間にゆとりをもって検査をお受けいただけます。



■ ご寄付のお願い ～医学研究の発展と優れた人材の育成のために～



当センターは、センター病院・国府台病院という2つの診療拠点に加え、研究所・臨床研究センター・国際医療協力局および国立看護大学校を擁し、高度総合医療を提供するとともに、特に感染症・免疫疾患ならびに糖尿病・代謝性疾患に関する研究・診療を推進し、これらの疾患や医療の分野における国際協力に関する調査研究および人材育成を総合的に展開しております。

当センターの活動を推進し、使命を十分に果たすためには、その活動財源を安定的・多面的に確保することが必要不可欠です。課せられたミッションを実現して国民の皆さまに成果を還元するための財源に関して、企業や個人の皆さまからの寄附によるご支援をお願いいたします。

何卒、当センターの寄附の趣旨にご理解頂き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



ご寄付のお願い



■ 診療時間

- 外来診療時間 8:30～17:15
- 初診受付 8:30～11:00

※休診日や完全予約制を設けている診療科もありますので、必ずホームページをご覧ください。



■ 患者支援アプリ導入のご案内

3月26日より、患者支援アプリ「Wellcne（ウェルコネ）」を導入いたします。お手持ちのスマートフォンにインストールし、登録のお手続きをいただくことで、診察待ちの状況や、外来の予約の確認などができるようになります。

- 診察待ち順案内が届きます ○アプリ決済（後払い会計）が可能
- 受診予約が確認できます ○院外処方箋の送信が可能です。
- 医療情報の確認が可能となります。



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
TEL 03-3202-7181（代表）
<https://www.ncgm.go.jp/index.html>

■ 地下鉄をご利用の方

都営地下鉄 大江戸線 若松河田駅（河田口）から徒歩5分
東京メトロ 東西線 早稲田駅（2番出口）から徒歩15分

■ 都営バスをご利用の方

- 新宿駅から（宿74系統）医療センター経由女子医大行き「国立国際医療研究センター前」下車 徒歩0分
- 大久保・新大久保から（橋63系統）新橋行き「国立国際医療研究センター前」下車 徒歩0分
- 市ヶ谷・新橋から（橋63系統）小滝橋車庫行き「国立国際医療研究センター前」下車 徒歩0分
- 都営飯田橋駅前（C1またはC3）から（飯62系統）牛込柳町駅経由小滝橋車庫行き「国立国際医療研究センター前」下車 徒歩0分